

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.2 平成25年4月17日発行
発行責任者：八木 博

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
mail info@soya-teachers.org web :http://www.soya-teachers.org

先生、「おれどいしよまじやろ？」 「おれはどいしよまじやろ？」

「主任」の意図を入れない 民主的な職場づくりを進めよう！

ほしいのは、
アドバイスなのじ...

学校の一年のスタート、春休みに職員会議で「主任命課」が行われます。主任制・主任手当が姿を表したのは今から三十八年前。それから、今日まで宗谷教組としての方針は一貫としています。長い歴史がもたらした「力合わせ」という財産を受け継ぐ私たちは、歴史を学び未来へつなげる役割があります。春だから、一度立ち止まり、「主任」制度について職場の全教職員で学び合い確かめ合うことを大切にしましょう。

「主任」制度は、当時の文部省が、上からの学校管理・統制強化のため導入したものです。魅力的で民主的な「分掌リーダー」ではなく「主任」に手当を支給することで、教育内容への介入と教職員集団を分断する学校づくりに大きな影響を与える制度です。

制度のねらい通りの学校になつたら、見出しのような会話が職員室のあちこちで聞こえてくることでしょうか。分掌も学年も、「これはこうです。こうしてください」という「主任」の先生の指示・指令で動くなんて考えられません。宗谷の学校づくりには、民主的なりーダーである校長先生を先頭に、目の前の子どもたちのことをみんなで考え話

し合い進めてきた財産があります。この財産は私たちの先輩が「主任」制度について深く理解する学習を怠ることなく、理解を深め合意づくりを大切にしてきたからこそ今の時代に受け継がれています。

宗谷教組の方針は「拠出・保管・活用」の三原則

宗谷では、組合加入の有無を問わず『主任手当』を個人所得にしない合意を積み重ねてきました。主任手当の意図を押さえ、次の方針を一貫して追求してきました。

- ① 学校を基礎に自主的・自覚的に手当を拠出する体制を確立すること
- ② 教職員と父母との共同での保管体制を確立すること
- ③ 教職員と父母との共通理解

にもとづく、活用体制を確立すること

なお、現在は、宗谷教職員組合が管理団体となり管理・保管しています。

宗谷の学校づくりを支えてきた先輩方の思いをくんで...

これまで長い間、主任手当が拠出され続けています。もとをたどれば、三十八年前、

宗谷教組が誕生する以前から大事にされてきた確固たる意志を私たちの先輩方が確かめ合ったという事実までさかのぼります。

前段に記したように、「主任」の意図を入れないことを確かめ合ったと同時に、「活用」のあるべき姿を次のように定めたいと、「拠出・保管」がされてきました。

直接、子どもたちの教育活動 を担うものに活用する。

この原則を大切に、これまで拠出が続けられてきました。また、実際のところ、今日までこの大前提を生かした活用策は見出されていないのが現状です。しかし、将来の宗谷の子どもたちのために：というたくさんの先輩方の思

いは今日まで受け継がれています。

「力合わせ」という言葉で...

宗谷では当たり前に使われている「力合わせ」という言葉。民主的な学校づくりが管内中の学校で行われているからこそ：の他の地域にはない言葉です。「みんなで話し合つて、よりよい学校づくりを進めよう！」—この言葉が「絵に描いた餅」になっていないことと、「主任」手当に関する合意づくりは大きな関係があるはず。だからこそ改めて、拠出することの意義を確かめ合い、「主任」手当を「個人所得」にしない職場の意思統一を呼びかけます。

春のあったか風を吹かせよう！

パンフレットで組合加入を呼びかけよう！

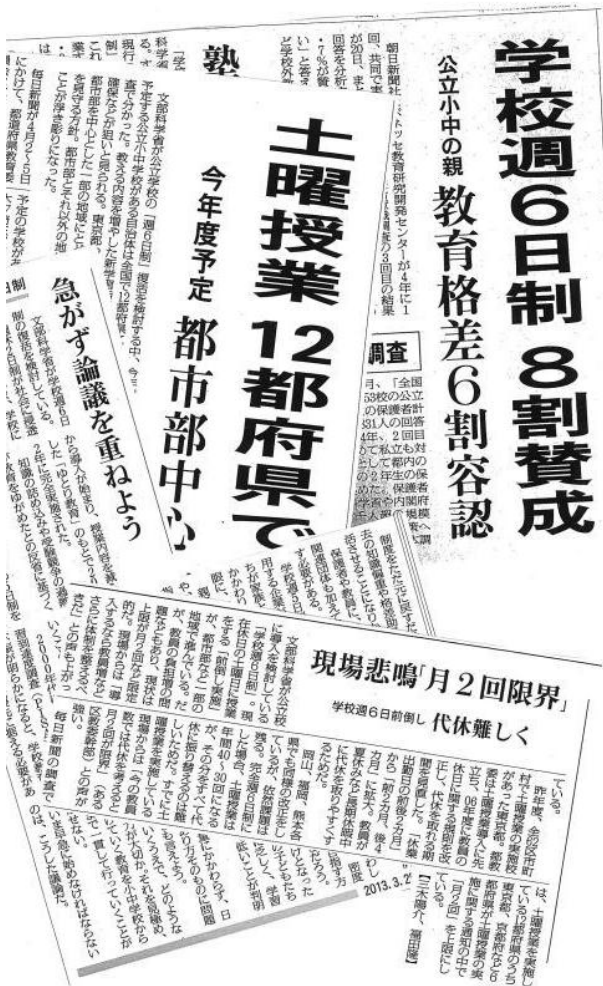
手書きのイラストは、宗谷の豊かな自然の中で、保護者のみなさん、地域の方々、そして私たち先生が手を取り合っていていこう！という願いを込めています（左から、先生・中学生・小学生・お母さん・地域のおじいちゃん...というイメージです。）。今年の春の宗谷教組のパンフレットです。

誰しもが若いころ「組合ってなんだ！？なんか怖くないか？」というイメージを抱きがちです。そんな漠然とした疑問を解決できるパンフレットを作りました。ぜひ、となりの先生に「組合のこと」、話してみませんか？



読み物

どうなる！？週6日制 新聞各紙がそれぞれ報道



二〇一三年。一年の三分の一があつというまに過ぎていきました。日々の忙しさの中にあふれるニュースの数々は、なかなかじっくりと自分の考えを持つ間もなくらいのスピードで流れていきます。宗谷情報では二回にわけて、二〇一三年になって衝撃を受けた教育問題に関する話題を取り上げます。ぜひ、分会会議の話題にしてみてください。今回は、春休みに新聞紙上にぎわせた「学校週6日制」を取り上げます。

学校週六日制の可能性が新聞紙上にぎわせるようになったのは、今年一月のことです。下村博文文科科学大臣が「公立小中高校で実施されている「学校週五日制」を見直し、土曜日も授業を行う「学校週六日制」の導入に向けた検討を始めた」と明らかにしたことです。隔週週五日制が初めて導入されたのは一九九二年のこと。その後、週五日制は平成一四年か

ら完全実施されました。長い年月をかけて社会制度として浸透してきた中で、二〇〇六〜二〇〇七年の第一次安倍晋三内閣では、脱「ゆとり教育」を目指した「教育再生会議」で見直しが提言され、自民党は昨年の衆院選でも政権公約に掲げていました。

せました。

ひとつは、三月二日の朝日新聞。一面トップに「学校の週6日制 8割賛成」という朝日新聞とベネッセの共同調査の概要が掲載されました。その結果、「隔週6日制」と「完全週6日制」の賛成を合わせると8割を超えるというものです。

一方で、三月二五日の北海道新聞は社説で「学校週6日制 急がず議論を重ねよう」という論調を展開しています。二〇年近く続けられてきた学校週五日制がもたらした成果と、週六日制で学力向上を急ぐのではなく日本の公教育の在り方そのものを考えるべきとまとめている。

また、四月九日の毎日新聞では、今年度十二都府県が土曜授業を行うことを報じる反面で、教職員の労働時間に関する規則の側面（代休の確保等）での限界性も指摘しています。こうした報道もあって、イン

道教委がメッセージを発表

『全国学力・学習状況調査を前に』

今年も全国学力・学習状況調査の時期になりました。北海道教育委員会は、「児童生徒向け・保護者向けメッセージ」を作成し、道教委ホームページにアップするとともに、各学校で配布されることになっています。

『「基礎・基本の定着」を図ればテストの点数が上がるはずだ』という道教委の思いが強く、子どもたちに危機感を持たせ、テストに向かう意識を指導する、という内容になっています。

「あなた方は『全国最低レベル』、『大幅に低い』んだよ」と言われて、やる気ができるのでしょうか。子どもたちはもとより、おうちの方も、もちろん私たち先生方も一生懸命子どもたちのことを想って力合わせしている現状とはかけ離れたチラシです。

本来の学びというのは、時間をかけて子どもの理解のスピードに合わせ、子どもが「興味を持ち、なるほど、わかった」という流れの中で知識を獲得していくという学習のプロセスに寄り添ったものであるべきです。学びを紡ぐことに希望が持てるような取り組みを進める中で、新しい学年がスタートして、期待に胸をふくらめさせる子どもたちを激励する営みが軽視されないよう気を付けたい話題です。

ターネットでも様々な論調が飛び交っています。

学校週五日制は、学校・保護者の要求ではなく、労働政策の一環として導入された経過があります。そのうえで、制度上の矛盾がある中で学校や地域は創意工夫を重ねてきました。そうした中で、これまでの経過や私たち教職員の努力、労働条件の改善や教育条件整備の観点。そして私たち教職員の努力など、学校現場の実態に目を向けたい制度改正議論です。

今回は学校週六日制について

宗谷の四季

取り上げましたが、先生方の意欲を削ぐ政策ばかりが叫ばれる時代です。ぜひ、職場や分会で話題にしてみましょう。次回は、退職金の大幅削減と北海道の独自削減について扱います。

4月になって、新たに宗谷教組への加入を決意していただく先生が増えていきます。「宗谷教組に入っしてほしい」と声をかけてくれる先生がいること、そしてそうした働きかけにこたえてくれる先生がいること、本当にうれしいことです。